

彩の国シェイクスピア・シリーズ

第16弾 『コリオレイナス』 第17弾 『恋の骨折り損』

公演に向け、高まる出演者たちの意気込み

俳優たちにとって、シェイクスピア劇に出演するという事は、大変な覚悟がいるものらしい。膨大なセリフ、演技方でいかようにも変化する奥の深さ……ましてや蜷川幸雄の演出ともなればおして知るべし。来年に公演を控える『コリオレイナス』『恋の骨折り損』の出演者たちも、早くも気合いの入っている彼らの意気込みを、まずは蜷川作品初出演者も多い『恋の骨折り損』から届けよう。

文・木俣冬(ライター)



北村一輝 (きたむらかずき)
ファードイナンド国王
映画・ドラマを中心に独特の存在感のある演技で注目を集めている。最近の主な出演作にTVドラマ『大奥 華の乱』(CX)『夜王』(TBS)『医龍』(CX)、映画『東京フレンズThe movie』『花田少年史 幽霊と秘密のトンネル』など。

姜暢雄 (きやうのぶお)
フランス王女
劇団「Studio Life」に所属し、舞台での活動の他、ドラマ・映画にも活躍の場を広げている。主なテレビ出演作にNHK朝の連続テレビ小説『わかば』など。出演映画『NANA 2』が12月9日公開される。

窪塚俊介 (くぼつかしゅんすけ)
デューマン
TVドラマ『ビー・バップ・ハイスクール』(TBS)でデビュー以来、映画・ドラマ・舞台などで活躍中、主な出演作として、舞台『歩兵の本領』、映画『火火』『最終兵器彼女』『スペン刑事コードネーム=麻宮サキ』など。

高橋洋 (たかはしやう)
ピローン
1998年『ロミオとジュリエット』に出演して以来、蜷川演出作品には欠かせない俳優の一人として活躍している。最近の舞台出演作に『天保十二年のシェイクスピア』『間違いの喜劇』『白夜の女騎士』『あわれ彼女は娼婦』など。

恋の骨折り Labour's Lost 損

蜷川作品初出演が4人も!

個性豊かな8人のイケ男たちがそろった『恋の骨折り損』。さすが、蜷川幸雄が注目する逸材ぞろい。本番はまだ来春だというのに、戯曲を読むのはもちろん、映画版を観るなど、早くも戦闘準備に入っている! 映画、テレビドラマで活躍する**北村一輝**さんは、『夜王』(TBS)を観た蜷川が「この人と仕事がしたい!」と熱望した俳優。「俳優として、いつかは蜷川さん演出のシェイクスピアの舞台に挑戦したいと願っていたので、オファーを頂いてビックリしました。とても光栄です。言葉の美しさなど作品性の高さに、やりがいを感じています。国王役なので上品なおもしろさをせ

ば」と抱負を語る北村さん。現場では面倒見がいいという証言も聞こえ、蜷川舞台初出演ながら、名実共に(!?)国王としてリードしてくれそうだ。今回、初参加組は北村さんを入れて4人。国王が恋するフランス王女役は**姜暢雄**さん。NHK朝の連続テレビ小説『わかば』でも注目され、ヒット映画の続編『NANA 2』(12/9 公開)出演にも期待が高まる。〈Studio Life〉というオールメール劇団に所属し、女性役にも定評がある。「村娘、町娘役は多いですが、王女役ははじめて。今から王女らしい動きを研究しています。男ばかりのカンパニーでは、同性同士で気を使わなくていい部分や、男ばかりの熱さでこそできる世界観があることを、劇団の体

験からもわかります。今回もきっとおもしろくなると思います」。回答にも楚々とした雰囲気を感じ出していた。映像でも活躍、舞台では唐十郎戯曲を演じたこともある**窪塚俊介**さんは、「2年くらい前、デビューしたばかりの時に蜷川さんの稽古場を見学させていただきました」と告白。今回、満を持しての出演となる。「この作品は登場人物たちの知恵と知識の応酬がおもしろいですね。男性チーム、女性チームという集団の個性も見どころですが、それを生かすためにもまず構成するひとりひとりが個性を出さなくてははいけないと思っています」と鋭い分析をする。窪塚さん演じるデューマンが恋するキャサリン役**中村友也**さんも初参加組。8人

の中で最年少。「蜷川さんという絶対的な存在の中で、何ができるか試してみたい」と熱い。ケネス・ブラナー監督のミュージカル映画版をさっそく観たと言う勉強家。「映画では僕の役は純粋な女の子というイメージでしたが、戯曲ではそんなに限定されたイメージは描かれていないので、蜷川さんの演出を受けながら、僕なりのキャサリンを作っていきたいです」。初出演組の面々は蜷川演出でどんな魅力を見せてくれるだろうか。

蜷川との出会いで成長する俳優たち

実際、蜷川と出会って成長できたと言うのは**内田滋**さんと**須賀貴匡**さん。内田さんは、今年2月のシリーズ第15弾『間違いの喜劇』で、美女がコミカルな言動をするギャップを鮮やかに演じた。「2度目の女性役にはややプレッシャーがあります。男の役ならいろいろなパターンを出せる気がしますが、異性だとそうそう変えられない気がして」と言いつつ、「蜷川さんには、もう一滴も出せないというくらい雑巾を固く絞るように、自分からアイデアを絞り出す

ことを教わりました。その後松尾スズキさん、G2さん、長塚圭史さんの舞台に出演し「経験」という水がもし溜まっていたら、また絞り出していきたいですね」と頼もしい。須賀さんは、04年『KITCHEN』で、蜷川演出を初めて経験し「精神面でも技術面でも鍛えられました。蜷川さんの現場は、皆のモチベーションが高くて刺激になります」と言う。舞台上で繊細に役に取り組んだことで、徐々に役者としての意識が高まった感がある。「今回は若い貴族たちが一生懸命恋をする物語。知性はあっても若さゆえの恋愛への不安定さや欠落した部分などを一生懸命演じることで、おかしさにつながるのかもしれない」。

オールメール作品の魅力とは?

さて、ラスト2は蜷川舞台常連の頼もしい俳優達。オールメール喜劇に3作連続出演している**高橋洋**さんと**月川悠貴**さんだ。高橋さんは、『間違いの喜劇』で難役・道化を軽やかに演じた。今回は、国王の臣下ではリーダー格のピローン。内田さん演じるロザラインに恋する役だ。「戯曲を読んでいて、姜さん演じる王女とロ

ザラインを間違える場面で、姜さんって背が高いから冷静に考えると間違えないだろう?と、ふと疑問に思ったんですよ(笑)。だいたい、8人の男女がよってたかって恋をする設定もおかしいといえおかし。でも、シェイクスピア流の少し強引な設定や、理屈で考えるとおかし部分、男が女を演じることで、リアルに突き詰めてよくなる…それがオールメール演劇の良いところのひとつだと思います。「オールメールの喜劇で、男が女性を演じるという非現実の世界と、本当に女性が存在しているような現実の世界を楽しんでください」という月川さんは須賀さん演じるロンガヴィルに想われるマライア。オールメール喜劇で常に女性役を演じ、毎回すきのない美しさを披露している月川さんは、今回、美しき女役が4人に増えたことに対して「張り合いがあっいいかな。負けられない(笑)。美しさを維持するだけでなく、もっともっと美しくならないといけない」と静かに闘志を燃やす。8人8色の作品への思いを聞くと、今から初日が待ち遠しくてならない。



内田滋 (うちだしげ)
ロザライン
舞台『毛皮のマリー』でデビューして以来、舞台を中心に幅広く活動している。彩の国シェイクスピア・シリーズ第15弾『間違いの喜劇』では、エイドリアーナ役を好演した。最近の舞台出演作に『近代能楽集』『間違いの喜劇』など。

月川悠貴 (つきかわゆうき)
マライア
数々の舞台・テレビの他、コンサートやディナーショーなど歌手としても活動している。また、蜷川演出作品の女役にはなくてはならない存在である。主な舞台出演作に『お気に召すまま』『近代能楽集』『間違いの喜劇』など。

中村友也 (なかむらともや)
キャサリン
2005年ドラマデビューした注目の若手俳優。主な出演作としてTVドラマ『風のハルカ』(NHK)『神はサイコロをふらない』(NTV)、映画『七人の唄』『乱歩地獄』『俺は、君のためにこそ死にいく』(2007年公開予定)など。

須賀貴匡 (すがたかまさ)
ロンガヴィル
映画・ドラマを中心に活躍する他、05年蜷川演出作品『KITCHEN』に出演するなど舞台にも活躍の場を広げている。最近の主な出演作としてTVドラマ『夜王』(TBS)、映画『ウォータース』『魁!クロマティ高校』など。